

川西市男女共同参画に関する 市民意識調査報告書



令和5年3月
川西市

調査概要

1 調査の目的

平成30年3月に策定した第3次川西市男女共同参画プラン【改定版】の見直しにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくため

2 調査対象

満16歳以上の女性1,000人、男性1,000人あわせて2,000人

3 調査期間

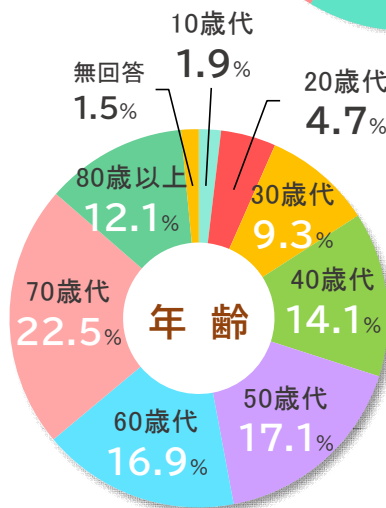
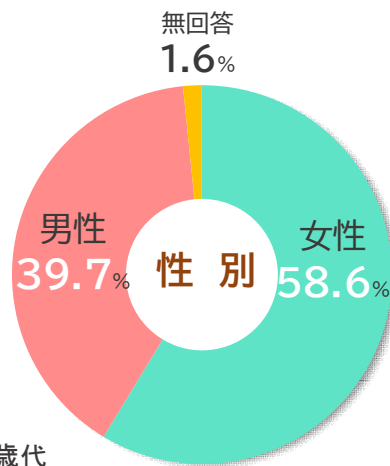
令和4年11月22日～令和4年12月14日

4 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

5 回収状況

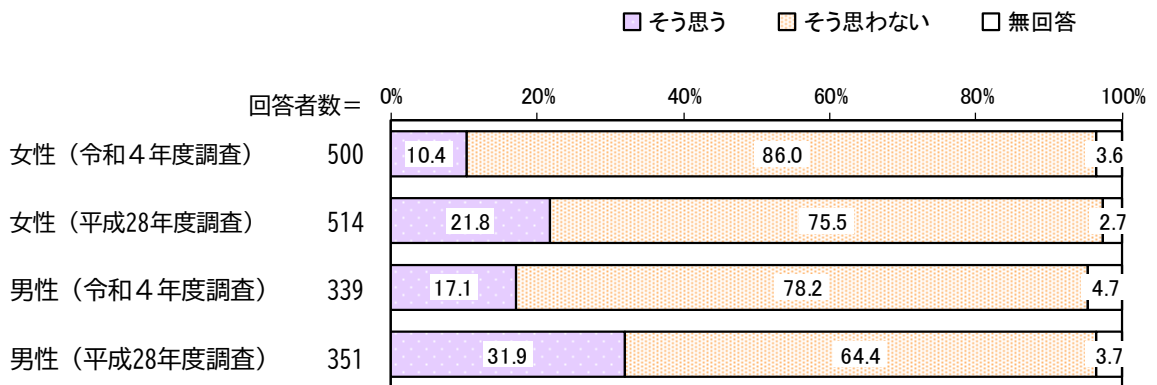
配布数：2,000通
有効回答数：853通
有効回答率：42.7%



性別役割分担意識

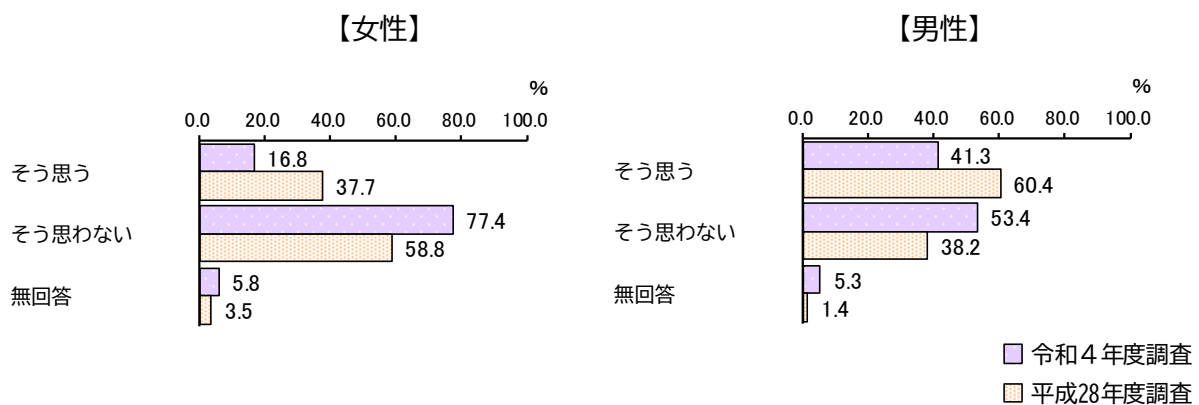
男は仕事、女は家庭という考え方

性別役割分担意識は、「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい」に賛成する人の割合が前回調査と比べて男女とも10ポイント以上減少していますが、男女差は依然みられています。



子育てについての考え方 「女の子らしく」「男の子らしく」

「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」と思う人は、男女ともに前回調査に比べて低くなっていますが、女性が16.8%に対し、男性は41.3%と高くなっています。



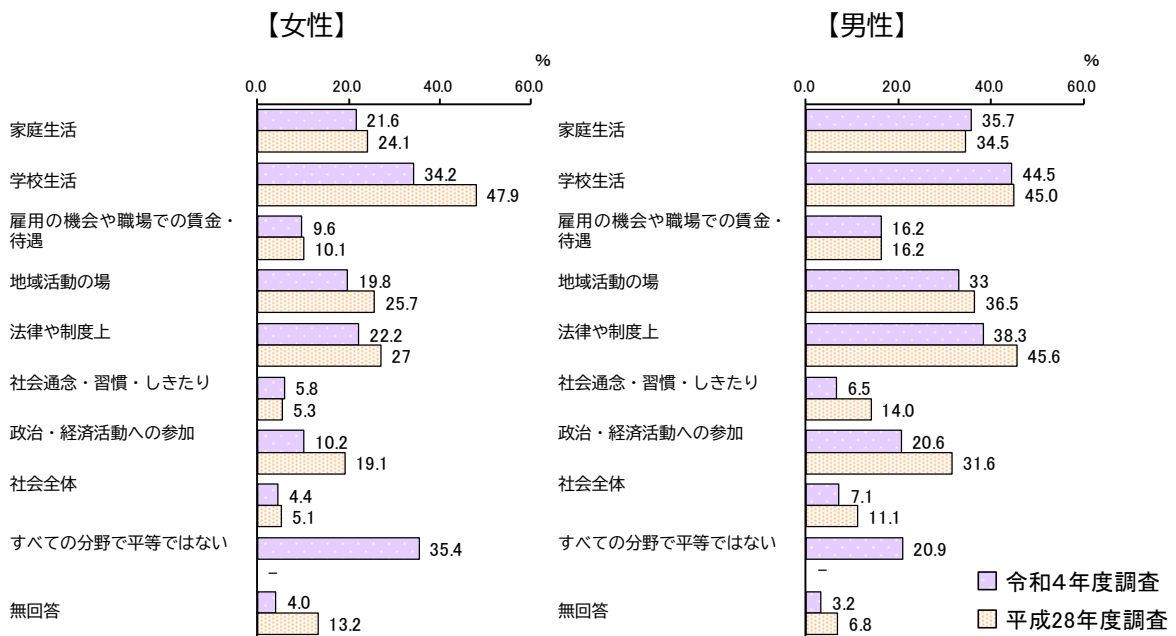
男女平等

男女の地位についての平等感

川西市における男女の地位についての平等感は、全ての項目において女性は男性に比べて低くなっており、「家庭生活」「学校生活」「地域活動の場」「政治・経済活動への参加」では10ポイント以上差がみられています。前回調査と比較すると「家庭生活」「雇用の機会や職場での賃金・待遇」等市民の身近な場における男女平等感については変化がみられていません。

固定的性別役割分担意識の改善はすすんでいるものの、「家庭生活」「雇用の機会や職場での賃金・待遇」の平等感は改善していません。

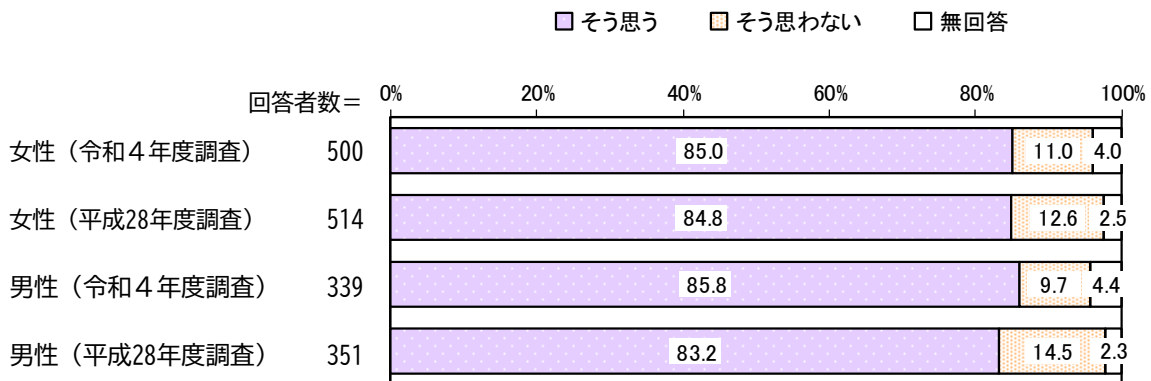
男女の地位が平等になっていると思う分野



※平成 28 年度調査では「すべての分野で平等ではない」の選択肢はありません。

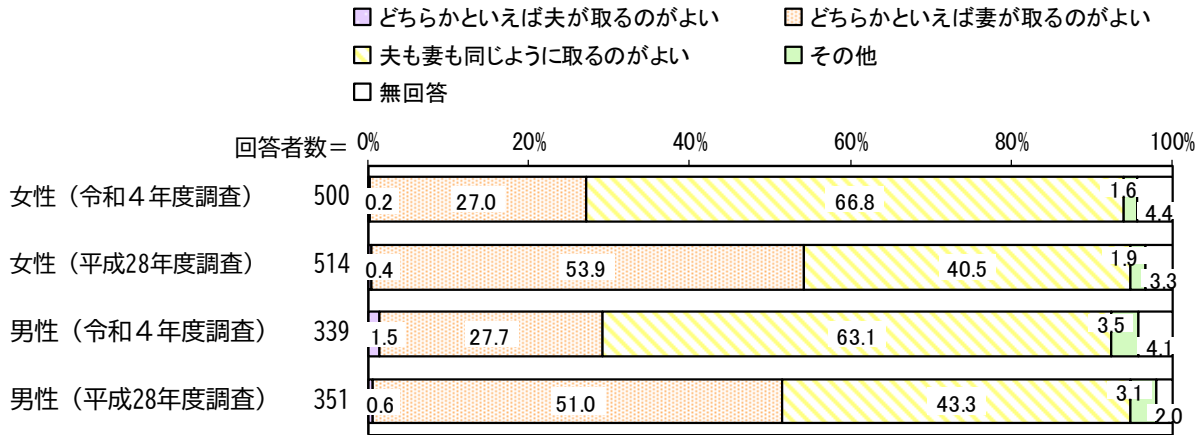
子育てについての考え方 育児への参画

子育てにおいては「夫も妻も等分に関わるのがよい」と肯定する人が男女とも8割台を占めており、前回調査と同程度となっています。



育児休業の取得（共働き世帯）

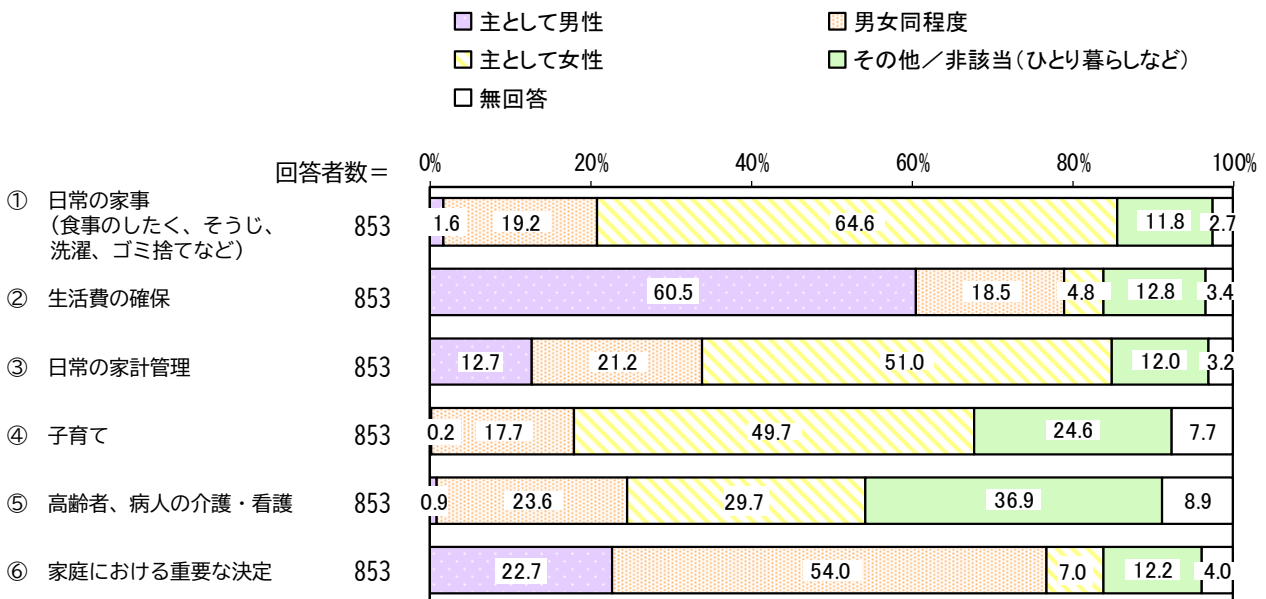
共働き世帯（事実婚を含む）が育児休業を取得する場合の考え方について男女ともに前回調査で最も高かった「どちらかといえば妻が取るのがよい」が減少し、「夫も妻も同じように取るのがよい」が最も高く6割を超えています。



家庭生活

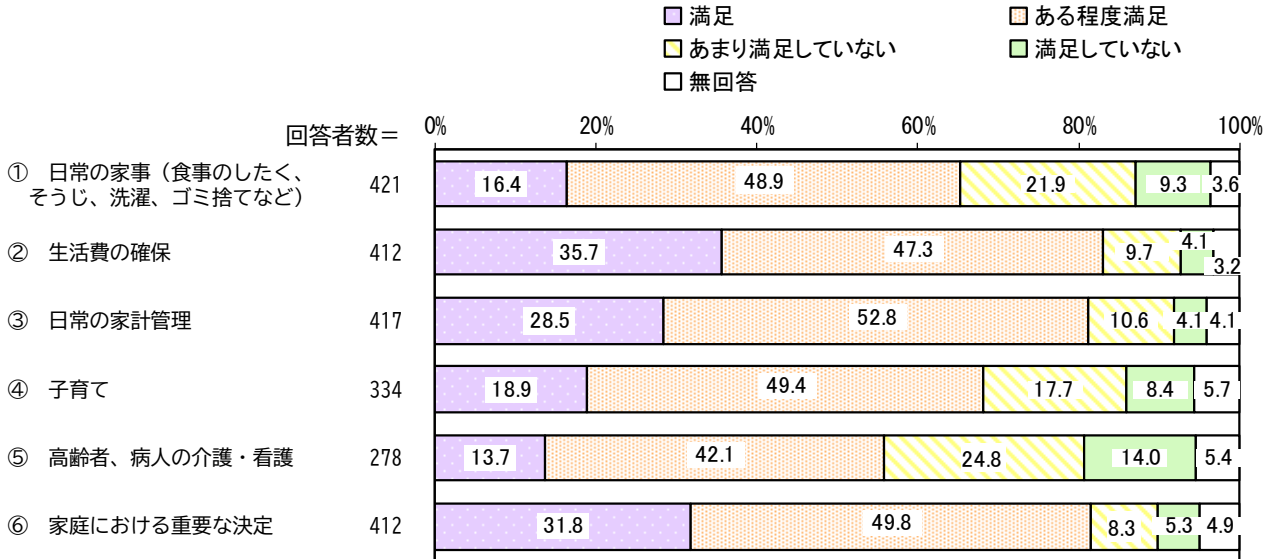
家庭での役割分担

家庭での役割分担ですが、『② 生活費の確保』が「主として男性」の割合が約6割、『① 日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）』で「主として女性」が6割半ばと高くなっています。



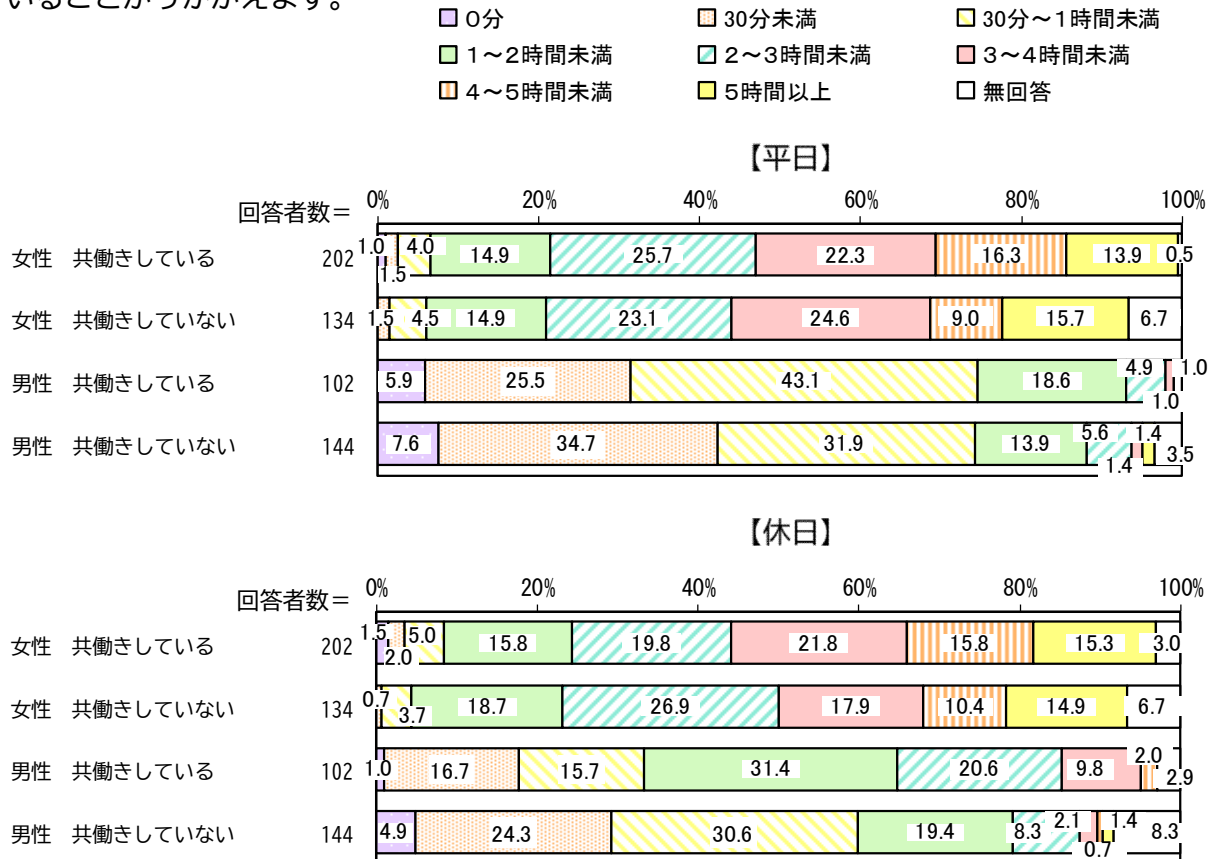
家庭での役割分担の満足度（女性）

家庭での役割分担の満足度ですが、女性では『① 日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）』『④ 子育て』『⑤ 高齢者、病人の介護・看護』で“不満”が高く、共働きの女性でその傾向が顕著になっています。



家事に要する時間

平日、休日ともに、男性が家事に要する時間は少なくなっています。共働き世帯の男性が家事を担う割合は、共働き家庭以外の男性に比べると高くなっているものの、依然、主に女性が担っていることがうかがえます。



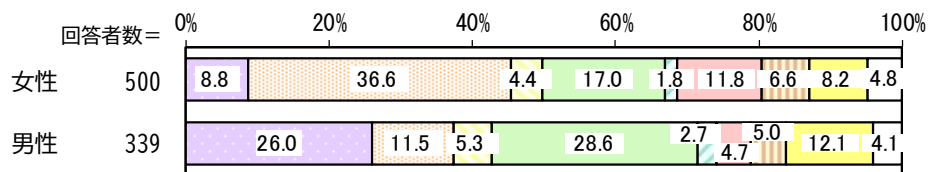
家庭と仕事

ワーク・ライフ・バランスの現実と希望

ワーク・ライフ・バランスの実現について、現実と比較すると、男女とも『仕事』を優先したいが低く、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが高くなっており、特に、男性ではその傾向が強くみられ、ワーク・ライフ・バランスの実現を希望する人が多くみられます。

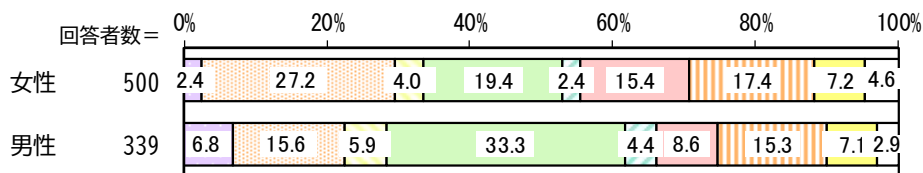
【現実】

- 「仕事」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 無回答
- 「家庭生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- わからない



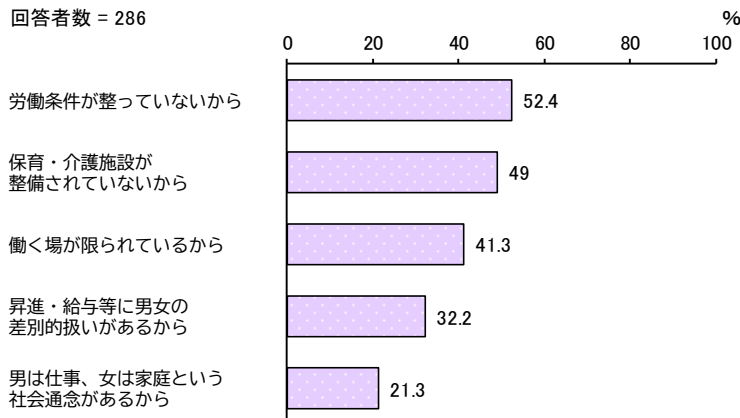
【希望】

- 「仕事」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 無回答
- 「家庭生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない



女性が働きやすい環境だと思わない理由（上位5項目）

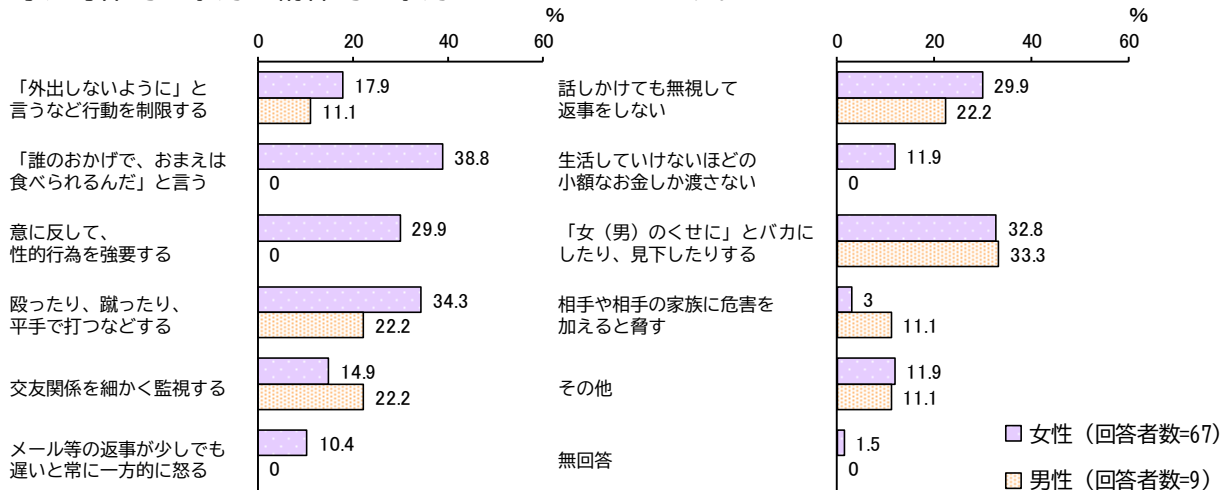
女性の就労状況については、働きやすい環境だと「そう思わない」女性の割合が57.2%となっており、働きやすい環境だと思わない理由については、女性で「労働条件が整っていないから」、「保育・介護施設が整備されていないから」「働く場が限られているから」が4割以上となっています。



性と人権

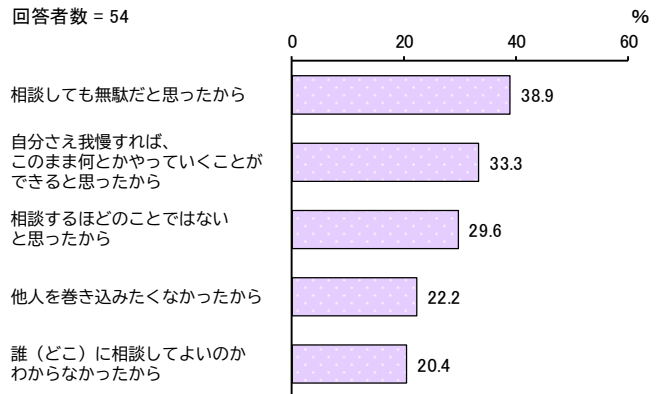
DVまたはデートDV被害の経験、内容

DVまたはデートDV被害の経験がある人は、女性で13.4%、男性で2.7%となっています。DVまたはデートDV被害の内容は、「『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」、「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」、「『女（男）のくせに』とバカにしたり、見下したりする」等、身体的な暴力や精神的な暴力があげられています。



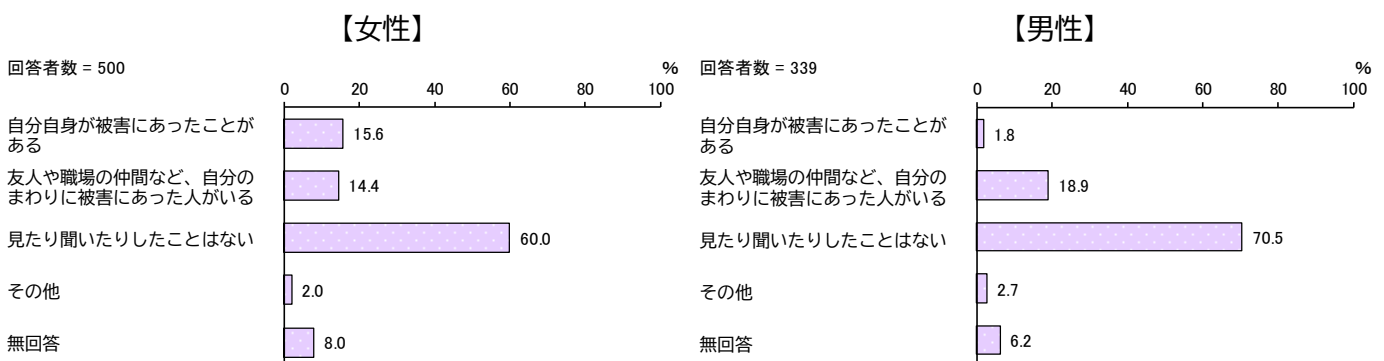
相談の有無、相談しなかった理由（上位5項目）

DVまたはデートDV被害のある人のうち、相談をしていない女性が67.2%、男性が100.0%となっています。相談しなかった理由として「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が3割を超えています。



セクシュアル・ハラスメントの被害

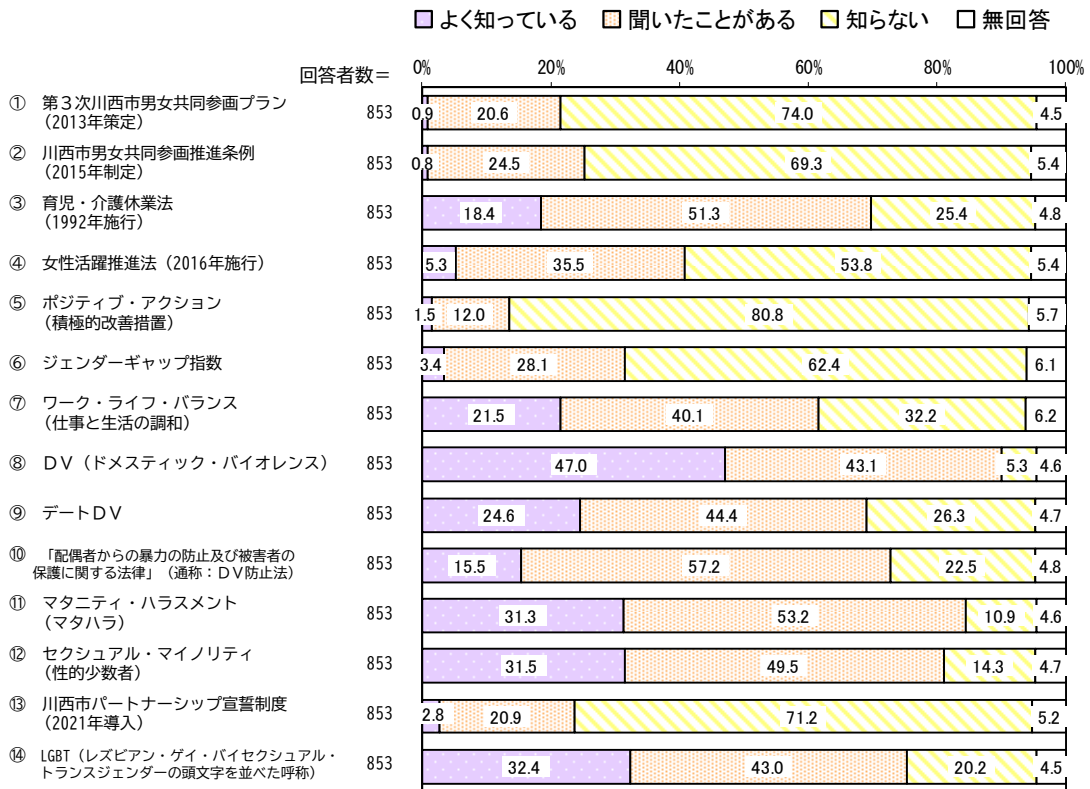
自分やまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあった割合は、女性が30.0%、男性は20.7%となっています。



男女共同参画施策

男女共同参画に関する「ことば」や「ことば」の認知度

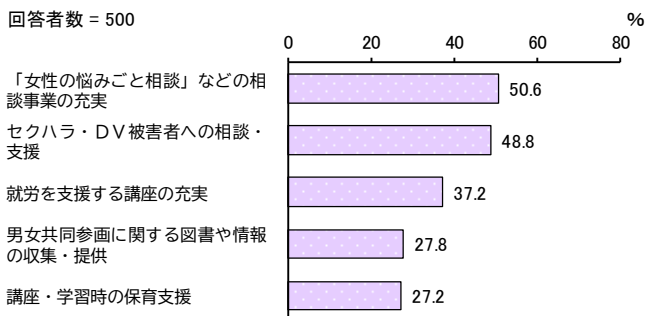
男女共同参画に関する「ことば」や「ことば」の認知度は、「マタニティ・ハラスメント」、「セクシュアル・マイノリティ」、「育児・介護休業法」は高くなっていますが、「第3次川西市男女共同参画プラン」や「川西市男女共同参画推進条例」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」「川西市パートナーシップ宣誓制度」の認知度は低くなっています。



川西市男女共同参画センターに望むこと（上位5項目）

川西市男女共同参画センターに望むことについて、女性は「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実と「セクハラ・DV被害者への相談・支援」が約5割と前回調査と比べても高くなっています。

【女性】



【男性】

